会議議事録

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 令和５年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」事業（２）教職員の資質能力向上の推進① 効果的な教育成果の公開方法等に関する支援体制づくりの推進 |
| 代表校 | 一般社団法人全国専門学校教育研究会 |

|  |  |
| --- | --- |
| 会議名 | 第4回教職員研修実施委員会 |
| 開催日時 | 令和5年10月12日（木）10:00～12:00 |
| 場所 | オンライン |
| 出席者 | 事業責任者：成底　敏、岡村　慎一　 　　　　　　　　　　計2名委　　　員：泉田　優、松田　義弘、栗林　直子、佐藤　善邦、藤井　達也、八木　信幸、及川　源太、遠藤　和彦藤井　貴志　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　計9名請負業者　：飯塚　正成　　　　　　　　　　　　　　　　計1名　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 合計12名 |
| 議題等 | 1. 各テーマのセミナーコンテンツ案及び進捗状況（泉田）

① ＦＤ関連事例紹介セミナー② ＳＤ関連事例紹介セミナー・東京会場、福岡会場ともに満席となり受付を終了した。【意見交換】・グループ分けはどのようにするのか？（泉田）・１グループ４、５名程度を想定している。（及川）・グループ数は６グループで行う。（遠藤）・初日の来賓挨拶はわかっているのか（佐藤）・船木室長補佐となりますが動画でのあいさつとなる。Slackで共有する。動画はいつ提出すればいいのかを教えてほしい（岡村）・10月20日までにPC周りのデータを集める（泉田）・文科省にはその旨で伝える。（岡村）・データは、及川にて適切なデータに変換して持参します。③ 職業教育のマネジメントセミナー（泉田）基調講演：職業教育のマネジメントの出発点 「育成する人材像」の考え方講師：久保寺 さつき(三菱総研)・講演（30 分）、2.ワークショップ（30 分）の構成。〇講演以下のような内容をご説明。・「職業教育のマネジメント」とは ・弊社調査研究における定義 ・職業教育のマネジメントとして取り組むべきこと ・職業教育のマネジメントを構成する要素 等・「育成する人材像」の考え方 ・「育成する人材像」の重要性 ・「育成する人材像」設定のポイント（①業界のニーズ把握、②中長期的なキャリアからの逆算、③知識・技能等と態度・倫理観等の双方を検討） ・いくつかの事例紹介 等〇ワークショップ以下のような進め方を想定。・個人ワーク（5 分） 配布された個人ワークシートに、 ①ご自身の学校で目指す「育成する人材像」 ②「人材像」を具体化、共有するための取組 ③今後必要だと思う取組 を記入。・グループワーク（15 分） 各グループ内で、個人ワークの結果を共有。 グループワークシートに ①他校との共通点や違い ②参考にできそうな取組等を記入。・全体共有（10 分）〇事例紹介は、日本電子専門学校と上尾中央専門学校には、既に了解を得ている。国際ビューティ＆フード大学校に打診済み。〇日程は福岡会場 令和 6 年 1 月 18 日㈭～1 月 19 日㈮東京会場 令和 6 年 1 月 25 日㈭～1 月 26 日㈮オンライン開催は検討。【意見交換】・国際ビューティに関しては私から確認して再度連絡する。まだ、卒業者もいないし少し難しいと考えている（佐藤）・事例発表いただいている2校については、両校ともに発表実績がある。毎回同じ学校でよいのか。質保証の調査で調査テーマに入っているのでいかがなものかと考えている。日本電子のテーマについては本年度の調査テーマと入っている。（岡村）・質保証側のアンケートで登壇できるヒントとなる学校はないのか（岡村）・確かにあるにはあるが、既に打診しているならその方向でいいのではないか（八木）・このセミナーのリーダーは松田さんにお願いする。講師などについての手配はやって後で松田さんに引き継ぐ。（泉田）・了解。（松田）・三菱総研のワークショップについては、岡村がサポートする。（岡村）・事例紹介のワークショップについてはどのようにするのか（八木）・オンラインの時のワークショップはしないということになりましたね。（八木）・それだと1時間半程度になるが、それは適切か（岡村）・質疑応答でつなぐのはどうか？（松田）・SDセミナー打ち合わせでは、少ない時間であってもグループワークを取り入れるようにした。（及川）・対面とオンラインとを区分する必要があるのではないか？（飯塚）・私の方で、久保寺さんと話あって、まとめて報告する。（岡村）・福岡・東京共に総括は岡村さん、あいさつは泉田が行う。（泉田）④ 自己点検・評価強化セミナー（八木）・開講挨拶及び令和 4 年度事業成果概要説明（20 分）・自己点検・評価【共通的評価基準モデル 2022】の説明（40 分）・「自己点検・評価【共通的評価基準モデル 2022】利用の手引き」の説明（40 分）・自己点検・評価の実際の運用について（運用イメージの紹介）（20 分）・グループワーク（60 分）「自己点検・評価の試行及び意見交換」4～6 人 1 組のグループをつくり、グループ毎に意見交換を実施する。【意見交換】・事業成果概要説明はどなたがやるのか？（八木）・概要説明は岡村さんにお願いする。（泉田）・了解。（岡村）・事後アンケートはどのように作成するのか（八木）・内容を変えればそのまま使えるものを作成している。Slackにて共有する。（遠藤）・司会はどのように考えているのか？（松田）・③④のスタッフは　福岡会場：松田、泉田、岡村、八木、飯塚　東京会場：栗林、藤井、泉田、岡村、八木、飯塚・オンライン開催はアーカイブできないか。（飯塚）・講師の方に動画撮影をしてもらうことがかのうか聞いてみる（成底）・講師間の動画撮影に人ごとに大きな差がでないか（岡村）・2月1,2,5,7日でオンラインセミナーの日程を調整する。（泉田）・研修案内は11月中旬を目途で案内発送。（泉田）・11月10日をめどに研修案内を作成。担当は藤井先生にお願いします。（泉田）・対面とオンラインとで案内文を区分するのか？（岡村）・11月10日の原稿締め切りはマストなのか？（松田）・マストでお願いします。（泉田）3.第 5 回委員会の内容について・事務局連絡等・第5回令和５年11月13日（金）15:00～　オンライン・第6回令和6年2月13（火）15:00～　オンライン |
| 配布資料 |  |

以上